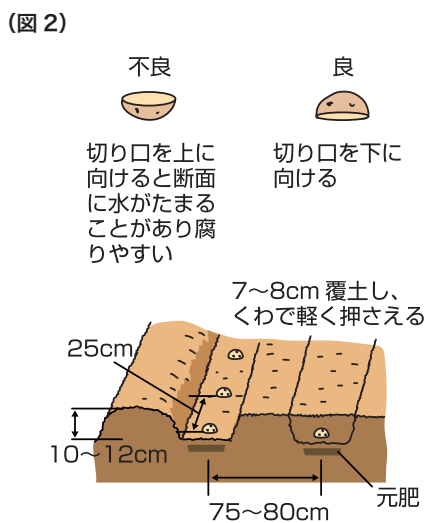
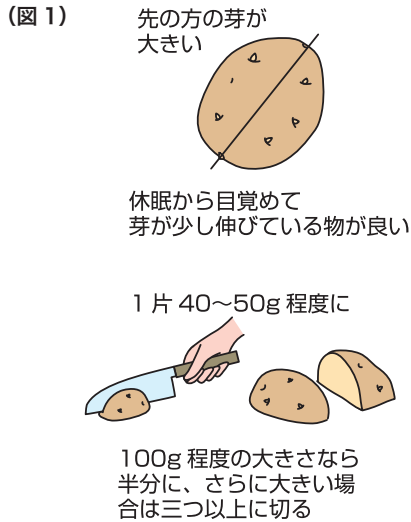




南米アンデス山脈のチチカカ湖周辺が原産地のジャガイモは、日本には16世紀にジャガトラ(現インドネシアのジャカルタ)から伝わり、ジャガイモと呼ばれるようになりましたが、馬に着ける鈴に似たところから馬鈴薯(ばれいしょ)の名もあります。ジャガイモの種芋は2月下旬から3月上旬が植え付け時期で、植え付けてから3カ月余りでその十数倍以上もの芋が収穫できます。栽培に当たってまず大切なこと



は、健全な種芋の確保です。種用として売られている無病芋、休眠から覚めて適度に芽が伸び始める物、早めに手配し確保します。かつては大敵のウィルス病のまん延を防ぐために国の管理下で種芋の生産が行われており、品種は「男爵薯」「メークイン」などに限られていました。無病芋の生産が安全に効率良く行われるようになったため、多くの品種がお目見えし、実にぎやかになってきました。

栽培のポイント

- ① 種芋の切り分け方
- ② 植え方
- ③ 芽の整理
- ④ 追肥と土寄せ
- ⑤ 収穫適期の判断

①の切り方は図1の通りです。切り面の草灰まぶしの効果はあまりないので、特に必要ありません。②の植え方も図2のように切断

面を下向きとします。

③は、地上部にたくさん出た芽をそのままにしておくとな数が多過ぎ、小粒の芋になってしまうので、2本を残して他はかき取ります。その適期は草丈15cm内外のこです。早過ぎると晩霜害を受けるとき全部やられてしまうことがあるので危険です。

④は草丈18~20cmに伸びたところ、敵の片側に追肥(1株当たり化成肥料と油かす各小さじ1杯ぐらい)し、その後10~15cmほど土寄せします。マルチしてある場合にはめくって土を寄せ、覆い直しておきましょう。土寄せが足りないようなら半月後に2回目を行い、芋が地上に出ないようにします。

⑤の収穫は、茎葉が自然に枯れ上がったところが適期です。晴天の土が乾いている日を選び、芋が乾いてから屋内へ取り込みましょう。積み上げると腐敗が多くなります。

その他、生育中に葉が黒変する疫病が発生し始めたなら、早めに適応薬剤を散布してまん延を防ぎましょう。トマトと同じ病害なので、近くにある場合は特に防除を怠ってはいけません。

肥料・農薬の紹介

春夏野菜にピッタリ！
家庭菜園に便利な

黒マルチ！

限定・各30本限りの
特別価格でご提供

黒マルチ(農業用資材)は主に雑草を抑制するために使用します。

春先など地温が低い時期は、太陽光を吸収し地温を逃さず安定させることができます。

また、夏の強い日差しによる急激な地温上昇を抑えることもできます。他にも、乾燥や土の跳ね上がりの防止等の効果があります。

ぜひ、この機会にご購入ください。今回は、家庭菜園の作業に便利な100cm巻を特別価格で販売します。

特別価格対象商品

- 0.02mm x 135cm x 100m
- 1200円(通常:1450円)
- 0.02mm x 150cm x 100m
- 1330円(通常:1610円)

※各30本限りの在庫が無くなり次第、通常価格となりますのでご了承ください。